

# 測定所スタッフより

## 『測定することの意味』

あの惨事 3.11 をきっかけに、私は今まで無関心だった『放射能』という怪物と向き合う事になりました。広島・長崎の原爆が落ちた事も知っていた、チェルノブイリ原発も知っていた、知らなかったのは放射能の怖さでした。

食品の暫定基準値を1キロあたり100ベクレル以下なら安全と言っても、しきい値はなく100ベクレルが安全だという保証はどこにもありません。1日99ベクレルの食材を365日食べたら36135ベクレルの摂取になります。こどもは大人の数倍身体に影響を受ける為、極めて危険です。自分達の身は自分達で守らなければ国は守ってはくれません。今の福島県を見て立証済みだと思います。

市民放射能測定所の意味はとても大きいと思います。まず、測定する事により目で確かめる事ができ、この活動が全国的に広がれば、行政や国にもいづれ対策をとらざるを得なくなるのでは、と思っています。生産者さんの意識も高まると思います。まだまだ長い道のりではありますが、地道に測っていくことが重要だと思っています。是非、皆様のお力添えをご頂戴したいと思います。

私はアロマセラピーが専門で、測定所のイベントなどで『ハンドマッサージ』をさせていただいています。とっても癒されると好評をいただいています。ぜひご利用くださいね。

(スタッフ Sachi)

## 『体験した事実を伝え続けたい』

原発事故の影響を受け、震災から9か月後、福島市飯野町から京都に子どもを連れて避難をしました。自ら測定しなかったら、避難を決断できなかったかもしれませんが、高校生の娘も父母も友達も、いくら放射線量が高くても普通に福島で暮らしています。

私が測定に携わるのは、福島での測定があまりに杜撰であること、そして未だにまだあの事故は終わってないということを忘れないためでもあります。

世間一般はすでに風化しているようではありますが、本当の事がちゃんと伝えられておらず、これは被災地だけではなく全国的、世界的な問題であり、大人達皆が意識していかなければならない大きな課題です。

今は避難した母親どうし、放射性物質で汚染された土地に暮らす子ども達をどう動かすかを日々考えています。諦めず、私たちが体験した事実を伝え続けていきたいと思っています。

関西ではじめて立ち上がった測定所に関わることができたこと、また、意識ある大人が繋がることで実現できるということに大きな喜びを感じています。

(スタッフ Yuka)